

地域自然史と保全

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

特集 都市の生物多様性地域戦略の課題と展望

Volume 40
Number 1
June 2018



関西自然保護機構
Kansai Organization for Nature Conservation

表 紙 の 言 葉

シカと森と草原

文・写真 前迫 ゆり

特別天然記念物春日山原始林を背景にシカがシバを食む。その音は軽快で心地よい。下顎を使っておいしそうに食べる。かつてあまり食べない植物とされたイトススキも今は、葉先半分程度まで食べている。シカの好みではないらしく若草山草地には、ナンキンハゼ、コガンピ、ワラビが広がっている。なかでも外来種ナンキンハゼは紅葉の頃、遠目にもよくわかるほど拡散している。草地の餌資源量に見合う「奈良のシカ」の頭数は 500 ～ 800 頭程度とされるが、現状では適正個体数の 1.5 倍～ 2 倍に増加している。今やシカにとっても受難の時代といえるかもしれない。

(2016 年 5 月 18 日撮影)

関西自然保護機構 (KONC : Kansai Organization for Nature Conservation)

KONC は自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して、自然環境保全に関する各分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして、1978 年に創立されました。

KONC はその活動の成果と、会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて、近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボディ (助言勧告機関) として、社会の要請にこたえることを企画しています。

現在、次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は、個人会員・維持会員の会費により、まかなわれています。